



発行日 2021. 12. 1
発行者 山路 雄彦
発行所 一般社団法人
群馬県理学療法士協会事務局
群馬県前橋市大渡町 1-10-7
群馬県公社総合ビル 6F
源流題字 浅香 満
編集責任者 榊原 清

源流

No.148

Contents

- 理学療法アラカルト「骨折リエゾンサービス（FLS）と骨折リスク評価ツール（FRAX）」
慶友整形外科病院 健康寿命延伸センター 加藤啓祐 . . . 02
- 理学療法士が知っておきたい社会保障制度 ワークライフバランス部 . . . 03
- 新生涯学習制度について 第3回後期研修 生涯学習部 部長 萩原晃 . . . 04-05
- 書籍紹介 片麻痺を治療する「I」体幹（座位、起立、立位のリハビリテーション）
桐生厚生総合病院 広木健太 . . . 06
- 職場紹介「リハビリ特化型デイサービス ムーブメント白才むら」 小泉雅樹 . . . 07
- 後輩理学療法士へ 医療法人信愛会 本多病院 介護老人保健施設うらく 柳澤達也 . . . 08
- 第28回群馬県理学療法士学会 開催 . . . 09
- 地域ケア会議推進リーダー導入研修会 開催 . . . 10
- 第34回臨床講習会 開催 ■介護予防推進リーダー導入研修会 開催 . . . 11
- 地域局小児リハビリ部研修会 開催 ■RFLJ2021 ぐんマルミナリエ点灯イベント参加 . . . 12
- 令和3年度ワークライフバランス部主催研修会 開催
- 東京2020オリンピック・パラリンピック大会活動報告 開催
- 地域ケア会議推進リーダー ステップアップ研修 開催 . . . 13
- 第46回基礎講座・症例検討会 開催 ■会員動向 ■ニュース収受 . . . 14
- 編集後記 . . . 15

「骨折リエゾンサービス（FLS）と骨折リスク評価ツール（FRAX）」

慶友整形外科病院 健康寿命延伸センター

加藤 啓祐



●骨折リエゾンサービス（Fracture Liaison Service；FLS）

今年発表された日本の高齢化率は29.1%と超高齢社会を突き進んでいる現在、脆弱性骨折は寝たきりの原因となるばかりでなく、生命予後を悪化させることから、その予防は社会的にも大きな課題とされています。また、脆弱性骨折は初発の骨折を起こすと（一次骨折）、再骨折（二次骨折）を起こすリスクが高まることも知られており、再骨折の予防は本人のみならず、家族、地域社会、更には医療経済の面からも重要な問題とされています。

しかしながら、脆弱性骨折の要因に骨粗鬆症があるにも関わらず、大腿骨近位部骨折後の骨粗鬆症治療率は20%程度とされており、脆弱性骨折後骨粗鬆症に対する治療は十分ではありません。

そのため、一次骨折の治療と同時に二次骨折を多職種で取り組む骨折リエゾンサービス（FLS）を行うことで骨折の連鎖を絶つことが重要とされています。

FLSは二次骨折予防を目的に多職種で介入を行います。骨粗鬆症に対する薬物治療だけでなく、各専門職が評価や指導を行います。薬剤師による服薬管理や服薬指導、理学・作業療法士による身体機能・転倒リスク評価と運動指導、栄養師による栄養評価と食事指導、ソーシャルワーカーによる地域連携やフォローアップを行う等、多職種による包括的な介入を行います。

●骨折リスク評価ツール（Fracture Risk Assessment Tool；FRAX）

FRAXは、脆弱性骨折による骨折リスクを計算することが可能なツールとして、WHOにより開発されました。FRAXでは12の質問をチェックすることで、将来10年以内の骨折発生リスク（予測骨折発生率）が示されます。DXA等の特別な機器がなくとも評価することが可能で、骨粗鬆症の簡易スクリーニングを行うことが可能になり、誰でも簡単に使用できるメリットがあります。骨折発生リスクがカットオフ値を超えた場合には骨粗鬆症の専門外来を促す等の介入を行います。

●これからのリハビリ

高齢者の疾患ではその治療部位だけでなくその患者の背景にも注意する必要があります。それは骨粗鬆症だけでなくロコモ・フレイル・サルコペニアもこれに該当すると思います。これらは健康寿命の延伸には重要な要因になるので、ぜひ臨床にも生かしていただければ幸いです。

FRAX®WHO 骨折リスク評価ツール

<https://www.sheffield.ac.uk/FRAX/tool.aspx?lang=jp> 参照

「残業について考えてみましょう」

ワークライフバランス部 原 耕平

今年の10月9日に、ワークライフバランス部が主催する初めてのオンライン研修会が行われました。働き方改革や社会保険制度に関する講義を受けた後、複数の小グループに分かれ、各施設の「働き方」について意見交換を行いました。そして、どのグループでも残業について意見が交わされ、皆さんの関心が高い話題であることが分かりました。

今回は、この残業について、今どのような課題が挙げられているのか、研修会で出た意見をもとに述べていきたいと思います。

現在、残業を含む時間外労働は、原則月45時間以内、年間360時間以内という上限規制が設けられています。なお、労使間で特別条項付36協定を締結していれば、年間720時間以内、単月100時間未満、2～6か月の複数月平均80時間以内となります。特別条項の場合でも、時間外労働が45時間を超える月が年間6か月をこえてはいけないうこととなっています。

働き方改革の一環として、時間外労働の上限規制が設けられてから、今までよりも残業の量や管理に意識を向ける方が増えたのではないのでしょうか。

では、先の研修会で挙げられた課題をまとめますと、次の2点になります。1つが残業の管理方法、そしてもう1つが残業として認められる業務の範囲です。

残業の管理方法については、管理職に対し事前申請する、事後報告とする、もしくは職員が各自で管理するといった方法がとられていました。事後報告や管理職が介入しない管理方法では、残業が習慣化し、場合によっては無駄な労働時間を増やしてしまうことが懸念されます。最近では、過度な労働時間を減らし、職員のメンタルヘルスを向上させる目的で、残業の事前申請を取り入れている企業が増えてきています。しかし、医療現場においては、突発的な対応や多職種とのカンファレンス等で事前申請が困難な場合もあるかと思ひます。こういった状況にも対応できるよう、職場の残業管理方法について改めて考えてみてはいかがでしょうか。

次に、残業と認められる業務範囲についてです。今回の研修会では、特に勉強会の取り扱い方について意見が多く挙がりました。勉強会は任意か強制か、講師と参加者で扱い方を変えるか、勉強会の資料作成の時間は残業として認めるか。おそらく、どの施設でも一度は話し合ったことがある内容なのではないのでしょうか。勉強会は職員の知識・技術を向上させ、理学療法の質を高めるために意義あるものだと思います。それ故、後々のトラブルを回避するためにも、ルールを明確にしておく必要があると考えます。

さて、ワークライフバランス部では、本記事の内容や残業に関するルールについて、会員の皆様から広くご意見を頂ければと思っております。つきましては、文末のアドレスまでご意見ください。よろしくお願い致します。

最後に、本記事が会員の皆様の職場環境をより良くするための一助となれば幸いです。

新人さん必見！新生涯学習制度について

第3回 後期研修

生涯学習部 部長 萩原 晃

これまで第1回では新生涯学習制度の概要、第2回では前期研修について説明させていただきました。第3回の今回は後期研修について説明させていただきます。

1. 後期研修概要

目標：多様な領域で標準的（スタンダード）理学療法を臨床実践でき、学生や後輩を指導できるレベル

履修内容：座学＜対面・eラーニング＞51コマ（76.5時間）＋実地経験3年（36か月）

修了までの目安：最短3年間

受講費：有料（金額未定）

2. カリキュラムと受講方法

後期研修は、A：臨床推論、B：臨床疫学（演習）、C：領域別研修（座学）、D：関連領域、E：領域別研修（事例）・（育成）、F：最近の知見の6講座に分かれています。

<カリキュラム>

■A 講座：4 コマ（6 時間）

「理学療法診断学①②」「画像診断学（画像関連）」

■B 講座：4 コマ（6 時間）

「臨床疫学Ⅰ・Ⅱ」「文献検索演習」

■C 講座：19 コマ（28.5 時間）

「神経系理学療法学①～④」「運動器系理学療法学①～④」「内部障害系理学療法学①～④」「病期別理学療法学①～④」「周辺領域と理学療法学①～⑤」

■D 講座：5 コマ（7.5 時間）

「栄養学」「創傷治療学」「薬理学」「福祉住環境総論」

■E 講座（事例・育成）：6 コマ（9 時間）・5 コマ（7.5 時間）

事例：「神経系理学療法学」「運動器系理学療法学」「内部障害系理学療法学」

育成：「臨床実習指導」「臨床教育方法論」「ティーチングとコーチング」

■F 講座：8 コマ（12 時間）

「神経系領域の最新の知見」「運動器系領域の最新の知見」「内部障害系領域の最新の知見」「基礎・公衆衛生領域の最新の知見」「その他の関連領域に関する最新の知見」「トピックス①～③」「協会の方針」「世界の動向」

<受講方法>

■A～D、E（育成）講座

（1）都道府県士会主催の研修会で受講する、（2）eラーニングで受講する

→現時点で群馬県生涯学習部での対面研修の予定はありません。

■E 領域別研修（事例）

士会主催の症例検討会や、士会が承認した施設内での症例検討会などで、発表もしくは聴講参加することで履修可能です。90分の聴講や30分の症例発表を行うことで1コマ分として認定され、「神経系」「運動器系」「内部障害系」の各領域において、2コマずつの受講が必要となります。自施設のみの発表では多領域での受講が困難なことも予想されるため、生涯学習部でも症例検討会の開催を現在検討中です。詳細が決まり次第ご連絡します。

■F 最近の知見

eラーニングのみでの履修となります。

第1回、第2回でもお伝えしましたが、新生涯学習制度への移行に辺り、新人教育プログラムが未修了の場合は、入会年数や経験年数に関わらず前期研修からとなりますので、現制度にて2022年3月31日までに新人教育プログラムを修了することをお勧めします。また、新人教育プログラムを修了されていても、経験年数や取得ポイント数、取得資格などにより登録理学療法士取得のために必要な履修内容が異なります。理学療法士協会の会員ページにご自身がどこに位置するのか確認する診断ツールがありますので活用して下さい。

次回の第4回で新生涯学習システムについての説明は最後となりますのでよろしくお願い致します。

<参考資料>

*新生涯学習制度についての詳細

【閲覧方法】「日本理学療法士協会マイページ」→「会員専用コンテンツ」→「新生涯学習制度」

【URL】<https://support.japanpt.or.jp/privilege/education/lifelonglearning/s10/>

*生涯学習制度に関する動画ページ

【閲覧方法】日本理学療法士協会ホームページ（オープンページにて公開[マイページログイン不要]）

【URL】http://www.japanpt.or.jp/about/enterprise/lifelonglearning/movie_list/

*生涯学習情報専用の Twitter

【アカウント情報】ユーザー名:@jpta_shougai

【URL】https://twitter.com/jpta_shougai

登録理学療法士の履修イメージ

（前期・後期研修の詳細版）



<図1. 登録理学療法士の履修イメージ>

※日本理学療法士協会会員ページ新生涯学習システムより引用

<問い合わせ先>

群馬県理学療法士協会生涯学習部部長 萩原晃（群馬大学医学部附属病院）

E-mail: m08204022@gunma-u.ac.jp

*****書籍紹介*****



片麻痺を治療する[Ⅰ] 体幹

(座位、起立、立位のリハビリテーション)

桐生厚生総合病院 広木 健太

著者名：宮本省三
出版社：協同医書出版社
価格：5,000 円 + 税



はじめまして。書籍紹介をさせていただく前にまず私の経歴を簡単にお話しさせていただきます。

私は新卒で特別養護老人ホーム、デイサービスでの勤務を3年、通所リハビリテーションで3年半、現在当院に約4年半勤めております。

私自身、維持期から急性期リハビリに移った際にリハビリの流れの速さや重症度の高い患者様に戸惑うことが多々ありました。特に脳梗塞の急性期の患者様のリハビリを担当したときに先輩方から「この患者様は腹部が効いていない」、「体幹を使えるようにしたほうがいいよ」とアドバイスを受けることがあり、自分自身の知識不足により「体幹を効かせる...？」とどうしていいかわからなくなってしまう場面が何度もありました。

今回紹介させていただく書籍は、書籍名の通り片麻痺の治療について体幹をメインに書かれており基礎的な体幹の解剖、運動学について、座位や立位での体幹の役割、片麻痺患者様の体幹の問題点について、また、その問題点をどのようにアプローチしていくかについて記載されております。

私自身この本から、体幹に問題のある片麻痺患者様のリハビリをする際に非常に参考にさせていただいております。

特に、この本に体幹の運動の自動化や無意識化は意識して何度も反復されて得られた結果であり、無意識的かつ自動的に行為を運動学習すると考えず、体幹の姿勢制御や運動制御を意図的かつ予測的に遂行し、その意図と結果に意識を向けることが重要と書かれています。

私は以前、既往歴に片麻痺があり患側の大腿骨頸部骨折を受傷した方を担当したのですが、リハビリの経過を追うにつれて筋出力は改善してきたが歩行時に患側への重心移動の不十分さが残存しリハビリに行き詰ってしまったことがありました。体幹機能はどうか再度評価してみると静的座位・立位での重心が健側に寄っていること、座位・立位で麻痺側への重心移動が不十分となっており、麻痺側に重心移動を促しても体幹の麻痺側への側屈を利用して行っており、立ち直り反応がみられないという問題点が再度抽出されました。

そこで、静的座位・立位で重心の修正と、座位にて麻痺側への重心移動時、徒手誘導で立ち直りの動きを促すと同時に「患側の肩を下げないようにしてください」という口頭指示を行いながら体幹の立ち直り反応を促しつつ、患側座骨に十分な重心移動を行う訓練を反復して行っていました。これらのように体幹の動きに意識を向けるようアプローチを行い、何度も口頭でフィードバックしながら反復し

てリハビリを進めた結果歩行時の患側への重心移動不十分さが改善され、意識を介した運動学習が重要であると実感することがありました。

他にも、この書籍から学んだことは多々あり今回の機会では紹介しきれないのが残念ですが、急性期や回復期を担当しているセラピストはもちろん、維持期のリハビリを担当している方、また、新人さんからベテランのセラピストの方々といったすべてのリハビリ職に参考になるところが多々あると思いますので興味がある方はぜひ一度手に取ってみてはいかがでしょうか。



職場紹介

リハビリ特化型デイサービス ムーブメント白才むら

小泉 雅樹



当デイサービスは平成 29 年 7 月 1 日に安中市に開設した、リハビリ特化型の地域密着型通所介護事業所です。利用時間は午前と午後で分かれておりそれぞれ 3 時間、定員 10 名と小規模であり、一人一人のニーズを反映した運動プランを提供することが可能となっています。地域の方が住み慣れた環境でいつまでも元気に暮らせるよう、状態に合わせた運動を提供させて頂いております。

利用者様は運動器疾患や脳血管障害、難病の方と幅広く、目的も身体機能の維持や退院後のリハビリテーションの継続など様々です。当デイサービスには理学療法士が 2 名在籍しているおり、利用者様の状態に合わせた個別性を重視したプランを提供することを心がけています。レッドコードを用いた運動を中心に実施することで、利用者様の状態に応じて負荷量を段階的に調整しながら、利用者様が主体的に取り組みやすい環境となっています。運動の多くはシンプルな動きで行えるよう工夫してため、慣れにくくすることで正しい動きを身に付けやすく自主トレーニングとして自宅でも行いやすくなっています。

プランの提案の際には独自に取り入れている評価システムを活用しており、評価の結果をグラフ化し見える形で利用者様に提供することで、現在の身体能力を一人一人が把握し納得した上でリハビリに取り組むことが出来ていると考えております。また、定期的に自宅を訪問して家屋環境や生活状況を確認することもプランの提案の一助となっています。

最後に、安中市では令和 2 年に高齢化率が 35%を越えており高齢化が進んでいます。こうした状況で、地域の方が住み慣れた場所で元気にいつまでも暮らして行けるよう地域全体の活性化が重要と考えています。当デイサービスとしてもより良いサービスが提供できるよう日々研鑽に励みつつ、今後は地域の状況に添った活動に力を入れていくことで、地域に貢献できるよう取り組んで参りたいと考えています。

後輩理学療法士へ

医療法人信愛会 本多病院

介護老人保健施設うらく

リハビリテーション室

柳澤 達也



皆さんこんにちは。医療法人信愛会本多病院・老健うらく所属の理学療法士、柳澤と申します。この度「源流」の執筆依頼を承りましたので、拙いながらも後輩理学療法士の方々へメッセージやこれまでの経験・現在の考え等を伝えさせて頂ければと思います。

私自身、今年で臨床7年目となりました。当初は老健の通所リハビリテーションに籍を置き、先輩方からのご指導を頂きながら日々の業務を一生懸命こなしていたと記憶しています。現在は訪問リハビリテーションに主を置き、日々自己研鑽に努めております。

生活期のリハビリテーションに最初から身を置いた為、私には急性期・回復期等での臨床経験が全くありません。学生時代の臨床実習についてはいずれもそのどちらかでの経験であった為、入職した当初は「一体何をすればいいんだろう?」「生活期のリハビリって何?」という気持ちが大半を占めていました。「維持期」とも称されるこの期間に、理学療法士として何ができるのか、数年間実務にあたりながら考えました。現在も考え続けている半ばではありますが、一つ私なりに行きついた答えが「その方が望む生活を支える」という、理学療法士にとって基本ともなる考え方でした。

お一人お一人それぞれに、その方の望む生活が多種多様にあるかと思います。

「歩けるし、大半のことは出来ているから今が続けばいい」

「買い物に行きたいけど、移動手段がなくて困っている」

「膝や腰が痛くて動きたくない。痛みが良くなれば色々したいことはあるのに」

このように身体的な要因が生活を阻害している方もいらっしゃるれば、外的要因でしたいことができない方もいらっしゃいます。今がなるべく長く続く「維持」を望む方もいらっしゃいます。勿論身体機能含め様々な要因で望む生活は変動していくかと思いますが、生活期に身を置く理学療法士として、身体機能面を含め、その方が住む生活圏での活動をより豊かな物にする為のアプローチが必要であると考え、日々業務にあたっている次第です。

今後、さらに高齢化が進んでいくとされる社会の中で、生活期における理学療法士の役割・必要性は増えてくることかと思います。各養成校での地域理学療法の実習も今後開始されていくとのことですので、急性期・回復期に続く生活期リハビリテーションについて興味を抱き、この分野へ飛び込んで下さる方が増えてくれば嬉しく思います。



研修会報告

第 28 回群馬県理学療法士学会 成功裏に終了！



「第 28 回群馬県理学療法士学会を終えて…」

特別養護老人ホーム菜の花館
学会長 志摩 耕平

令和3年10月3日。第28回群馬県理学療法士学会は、全国的に新型コロナウイルス感染症が落ち着きをみせたまさにこの上ないタイミングで開催されました。本学会は、感染の流行状況においても多くの方々に参加いただき、安全かつ活気ある学会にするべく、オンライン上でのライブ配信とオンデマンド配信の2つの形式をとることとなりました。そのかいがあり、北は北海道、南は鹿児島から161名もの方々に参加登録を頂きました。また、一般演題も41題と私たちの目標数を大きく上回るとても多くの演題登録となりました。いずれも群馬県の理学療法士を代表する方々の発表が続き、優れた内容とともに活発な討論があり、熱気を感じさせる会となりました。さらに、基調講演には順天堂大学の高橋哲也先生、教育講演は茨城県立医療大学の宮田一弘先生、市民公開講座は榛名荘病院の塩浦宏祐先生にご講演をいただき、どの講演も激変する現代の状況において光明を見出す大変に素晴らしい内容でした。市民公開講座におかれましては、Youtube配信にて継続して閲覧可能となっております。より広く多くの方々にご周知いただき、健康増進に寄与していただければ幸いです。

本学会はコロナ禍における新たな可能性を模索する会となりましたが、一人の感染者を出すこともなく、無事に終了することができたことに安堵しております。このことは、本学会の学会長として大変に誇らしく思うとともに、改めて学会開催に向けてご尽力いただきました関係者の方々、そして演者ならびに学会に参加された方々に厚くお礼を申し上げる次第であります。ありがとうございました。

令和3年10月3日に第28回群馬県理学療法士学会を無事開催することができました。準備や運営、ホームページの構築に際し、多くの方々にご指導をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

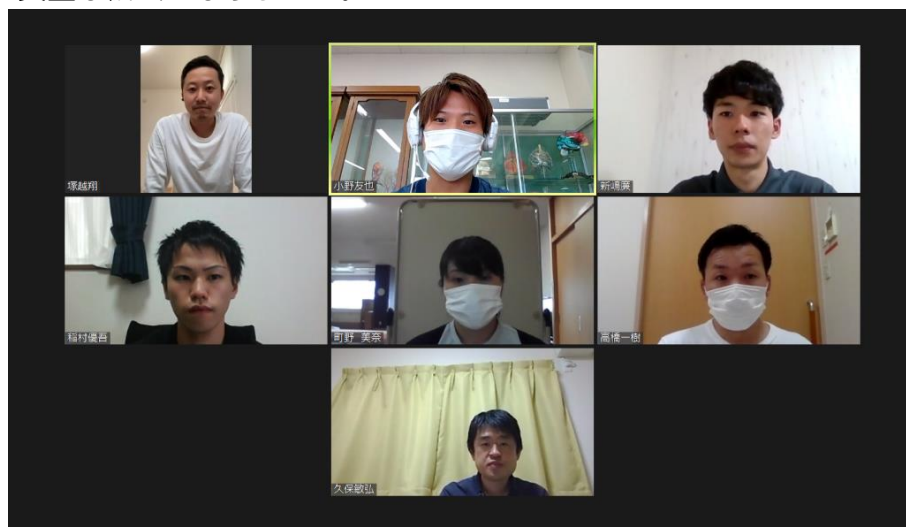
本学会では161名の方々から参加登録をいただきました。他県に所属する方々からも参加登録をいただき、幅広い参加者を募れる点はオンライン開催のメリットであると感じました。また、学会に参加するという目的が、単なる情報の収集や発信といった形式知を共有することだけではないということを感じ、改めて再認識しました。コロナ禍で多様な制限を強いられる状況ですが、可能であれば実際に足を運び、参加者同士で顔を合わせるといった体感を伴い、情報交換や議論が交わされること、時には他者からの気付きや刺激を得ることで経験知を得る機会は、学会参加の主たる目的であり醍醐味であると感じました。

市民公開講座「今日からはじめるイキイキのコツ」は、学会ホームページ上から、YouTube配信で今年末まで閲覧可能です。対象者の方々が毎日をイキイキと過ごすきっかけとなり、生活の質の向上に少しでも寄与できれば幸いです。

地域ケア会議推進リーダー導入研修会 開催

令和3年8月15日(日)、オンラインにて地域ケア会議推進リーダー研修会が開催されました。研修会の前半は、榛名荘病院の塩浦宏祐先生、前橋市長寿包括ケア課の北原絹代先生、高崎健康福祉大学の篠原智行先生、介護老人保健施設たまむらの福田貴洸先生の4名の先生より、地域包括ケアシステムや地域ケア会議について、また理学療法士の役割や心構えと実際についてご講義いただきました。実際に地域ケア会議に参加されている先生方から、理学療法士が地域ケア会議で求められていることや会議での資料読み込みのポイント、多職種へ敬意を持って関わることの重要性などを教えていただきました。

後半では、模擬地域ケア会議を、研修参加者にそれぞれの職種を振り分けグループワークが行われました。模擬地域ケア会議に参加することで、実際の流れや時間配分、会議で気をつけるべきことなどを実際に体験できた貴重な機会となりました。



第 34 回臨床講習会 開催

令和 3 年 8 月 22 日にオンラインにて第 34 回臨床講習会「フレイルと理学療法」をテーマに、国立研究開発法人国立長寿医療研究センターの土井剛彦先生にご講義いただきました。フレイルについて、概要から分類、フレイルの評価指標や介入方法を分かりやすく説明していただきました。フレイルと聞くと、身体面のフレイルに着目しがちですが、認知面や社会面が重なり合うことで、フレイルが成り立っていることを分かりやすく説明していただきました。また、フレイルの評価方法について、多くの評価項目がありますが、評価を行う際の注意点として、声掛けや設定を毎回同じやり方をする、方法を統一することが重要とおっしゃっていました。

講義の中では、多くの評価方法や、介入方法・臨床の場で活用しやすい資料などを教えていただき大変参考になる講習会となりました。

令和 3 年度介護保険部主催研修会 開催

令和 3 年 8 月 29 日（日）、令和 3 年度介護保険部主催の研修会が開催されました。前橋市長寿包括ケア課の北原先生より『介護予防の目的と PT の役割』、榛名荘病院の原田先生より『介護予防の実践』、群馬大学医学部保健学科の山上先生より『介護予防事業の企画・立案、関連する組織とのかかわり方』というテーマで講義をして頂きました。昨年度同様にオンライン形式での開催となり、36 名の参加がありました。『介護予防の実践』の講義の中ではコロナ渦で対面での実施が困難となっている中で工夫をしながら活動を継続している話を聞くことができました。またグループワークでは 6 グループに分かれ、事業を継続していくためにはどうするか、感染予防をどうするかなどといった観点からも柔軟な発想の意見が聞かれました。今回の研修会が介護予防としての地域活動への参加が継続できると共に感染症対策も行っていくという事の両立を図りながら活動を行う際の一助になれば幸いです。

（小泉の杜 井上恵美子）



地域局小児リハビリ部主催研修会 開催

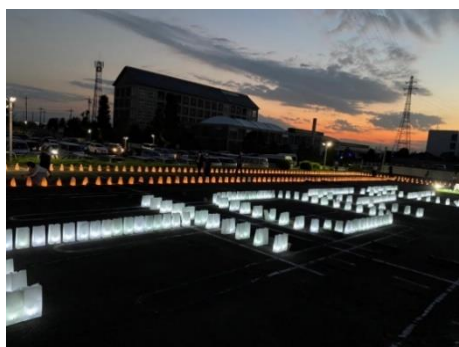
令和3年9月23日にオンラインにて、地域局小児リハビリ部主催研修会「地域学校での理学療法に必要な基礎知識」をテーマに、健康科学大学 健康科学学部理学療法学科の粕山達也先生よりご講義いただきました。少子化の中で、子供の数は減っているが体育関連での負傷は増加しており、運動の不器用さが多くみられているとのことでした。また、不良姿勢の子供の多くに腰背部痛がみられると教えていただきました。

現在、実際の学校現場で、運動器障害の早期発見するために、日本理学療法士協会から、学校での運動器障害の事後措置と予防を支援する、スクールトレーナー制度という制度が動き出しているとおっしゃっていました。学校の先生などに伝える際は、理学療法士の視点や知識を、わかりやすく学校現場に伝えることが重要とのことでした。子供の成長過程では、筋力や持久力、骨格も変化があり、運動パターンにも変化みられます。そこで遊びも利用しながら関わっていくことが必要と教えていただきました。ただ、運動が苦手や嫌いな子には、様々なことを行っていくしかない、難しさも教えていただきました。講義の中では、多くの動画資料があり、大変わかりやすく理解しながら講義を受けることができました。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2021 ぐんま ルミナリエ点灯イベント参加

令和3年10月8日に、ルミナリエ点灯イベントが群馬県健康づくり財団駐車場にて開催されました。リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2021 ぐんまのリレーイベントは、新型コロナウイルス感染症の拡大懸念があるため、残念ながら中止となってしまいましたが、ルミナリエ点灯イベントが開催され、群馬県理学療法士協会の会員から寄せられたルミナリエも並びました。数多くのルミナリエが点灯しており、「HOPE」と並べられたルミナリエが、非常に印象的でした。ルミナリエの一つ一つには、がんで亡くなった方への思いや、がんで闘病している方へのメッセージが書かれており、がんについて考える貴重な機会となりました。

ルミナリエ点灯イベント会場の様子を YouTube 群馬理学療法士協会チャンネルにアップしました。ぜひご覧ください。<https://youtu.be/uQWDmpYddE>



ワークライフバランス部主催研修会 開催

令和3年10月9日リモート開催にて、ワークライフバランス部主催で「ワークライフバランスを考えてみませんか」をテーマに研修会が開催されました。

前半では、中嶋労務管理事務所 社会保険労務士の中嶋栄先生より働き方改革と最近の社会保障制度についてご講義いただきました。働き方改革で目指すものとして、魅力ある職場づくりが人材確保につながり、生産性向上や業績向上につながると教えていただきました。また、育児休業や介護休業などの法律や制度について教えていただき、働く上で必要な法律や制度を知ることができ、とても貴重な機会となりました。後半では、グループワークが行われました。各グループにて残業代や勤務時間、職場環境などについて意見交換が行われました。それぞれの職場での業務量の違いや残業を減らす取り組みなどを聞くことができました。また、最近の働き方改革で、働きにくさが出ているといった意見も聞かれました。今回、現在の職場以外の業務環境や取り組みについてなかなか知ることが出来ないの、知ることができ良い機会になりました。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会活動報告会 開催

令和3年10月16日にオンラインにて、地域局スポーツ推進部主催で東京2020オリンピック・パラリンピック大会活動報告会が行われました。今回の報告会ではオリンピック・パラリンピックにスタッフとして参加した11名の先生方も参加しており、代表でぐんまスポーツ整形外科の武井健司先生、上武呼吸器内科病院の加藤大悟先生、上牧温泉病院の小林智忠先生、あさくらスポーツリハビリテーションクリニックの佐々木沙織先生の4名の先生方に活動報告をしていただきました。4名の先生方は、オリンピック期間中に武井先生は選手村内の診療所、加藤先生は水泳会場で活動。パラリンピック期間中には小林先生が選手村内の診療所、佐々木先生がパラカヌー会場で活動されました。各先生方より対応した事例、うまくいったこと、コロナ禍での感染対策やそれぞれの競技に合わせた対応、国際大会ならではの多言語での対応について報告いただきました。どの先生方も事前準備や対応のシミュレーションをしっかりと行ったとおっしゃっており、普段の臨床現場においてもしっかりと事前準備を行うことが重要だと改めて感じました。

地域ケア会議推進リーダー ステップアップ研修 開催

令和3年10月17日にオンラインにて、地域ケア会議推進リーダー ステップアップ研修「人生100歳時代の地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割」をテーマに、東京都立大学 浅川康吉先生にご講義いただきました。今後、日本は後期高齢者が急増し、多死社会をむかえにあたり、理学療法士の役割として、寿命までの期間をどのように支援するか・健康寿命をどのように延ばすか・在宅や施設で看取りを支えられことの、3つは一通り知っていることが大切になってくると教えていただきました。

また、訪問や通所、地域ケア会議など様々な場所での助言は、それぞれの役割や求められていることを理解して、その場に合わせた助言が大切だとおっしゃっており、住民運営の通いの場においては、理学療法士の役割として、理学療法士が主役ではなく、地域住民が居場所・出番・自信・意欲・役割を持てるよう、専門職として関わった方がよいと教えていただきました。

地域包括ケアシステムでの理学療法士の役割を理解することができ、大変参考になる研修会でした。

第 46 回基礎講習・症例検討会 開催

令和 3 年 10 月 31 日にオンラインにて、第 46 回基礎講習・症例検討会が開催されました。

基礎講座では、京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻の建内宏重先生より「股関節の機能解剖と疼痛及び不安定性の評価・治療」をテーマにご講義いただきました。協調分散理論という概念に沿って、股関節の不安定性についてや評価方法、変形性股関節症について股関節と体幹や足関節の協調関係についてご講演いただきました。股関節についてより理解を深めることができました。

午後は症例検討会が行われ、堀江病院の久保一樹先生、日高リハビリテーション病院の原田大樹先生、上牧温泉病院の茂木成介先生、群馬リハビリテーション病院の山崎紳也先生の 4 名の先生方より、股関節疾患について症例発表していただきました。4 名の先生方の介入方法などを発表していただき、非常に参考になりました。

会員動向

令和 3 年 11 月 24 日現在

会員数 2,153 名（勤務先会員 1,919 名、自宅会員 234）、休会 206 名、施設数 316 施設

ニュース収受

2021/08/17	滋賀県理学療法士会ニュース No. 219	滋賀県理学療法士会
2021/08/17	群馬県作業療法士会ニュース 第 145 号	群馬県作業療法士会
2021/08/31	JPTA NEWS 2021.8 Vol.332 NO LIMIT Vol. 86 理学療法学 2021 Vol. 48 No. 4	日本理学療法士協会
2021/08/31	愛知県理学療法士会ニュース 2021. 8	愛知県理学療法士会
2021/08/31	京都府理学療法士会ニュース Now NO. 287	京都府理学療法士会
2021/08/31	らいちょう No. 137, No. 138	岐阜県理学療法士会
2021/09/03	大阪府理学療法士会ニュース第 287 号	大阪府理学療法士会
2021/09/07	北海道理学療法 Vol. 38, 2021	北海道理学療法士会
2021/09/14	サポーターズ NO. 158 2021 秋号	山梨県理学療法士会
2021/09/14	士会だより 2021September No. 191	兵庫県理学療法士会
2021/09/17	会報 群臨技 470 号、群臨技会誌 2021 Vol. 60 No. 1	群馬県臨床検査技師会
2021/09/28	静岡県理学療法士会 NEWS ゆまにて No. 188 号	静岡県理学療法士会
2021/10/01	静岡県理学療法士会学術誌 静岡理学療法ジャーナル第 42 号	静岡県理学療法士会
2021/10/04	ゆきわり草 No. 196	新潟県理学療法士会
2021/10/04	ケアマネ群馬 No. 123	群馬県介護支援専門員協会
2021/10/08	広島県理学療法士会ニュース No. 266	広島県理学療法士会
2021/10/12	ぬくもり群馬 2021 秋号	群馬県MSW協会
2021/10/12	インフォメーション No. 173・年報ひたちの 令和 2 年度	茨城県理学療法士会
2021/10/12	神奈川県理学療法士会ニュース 2021October No. 289	神奈川県理学療法士会
2021/10/22	ぐんま作業療法研究 Vol. 24	群馬県作業療法士会
2021/10/22	秋田県理学療法士会ニュース 第 202 号	秋田県理学療法士会

編集後記

源流作成にあたり原稿執筆や研修会など、多くの方々にご協力をいただきありがとうございました。コロナ禍でも、各部会の先生方のおかげで、オンラインで研修や学会に参加ができることを非常に感謝いたします。

私事ですが2月に子供が生まれ、育児の楽しさや大変さを日々感じております。まだ言葉は話せないですが、一生懸命泣いたり怒ったり笑ったりして感情を伝えてきてくれます。何事にも一生懸命な姿を見て、私も仕事に育児にあらためて頑張らないとだなと、子供に教えられた気がします。

蜂巢 健人